



■ 名 前 (ふりがな)	宗美 晃永
■ グループ名	
■ 学校名	広陵高等学校
■ 学 年	3 年
■ 年 齢	18 歳
■ お手伝いしていただいた方の名前	宗美 秀史 (父)

■ レポートした場所	広島県山県郡芸北町川小田
■ レポートの題名	僕を育てている川
■ 内 容	<p>僕は、広島県芸北町で育ちました。芸北町は、農林業の町で、街域は、西中国山地国定公園に指定されている、四季のはっきりした美しい土地柄です。特に冬場は日本最南端のスキー場があり雪（水）に恵まれた所です。</p> <p>僕は幼い頃から、父に連れられ家の近くの滝山川に川遊びや魚釣りに行きました。川沿いで土を掘り起こし、みみずを捕まえ自給自足のえさにしては、釣果はたいした物だった記憶がありあます。</p> <p>父の口癖は、「食べないのなら、川に赦して（返して）上げなさい。」それは、父が子供の頃に教わった教訓だそうです。自然の中のものは、自然の中が一番、生体系を変えることなくそのままの姿を維持していこうと言う先人達の「知恵」を子供の僕にもわかるように身につけさせていたのだということを最近しみじみと感じるのです。</p> <p>滝山川には、父が子供の頃 コイ、ムギツク、ドジョウ、ドロツパチ（タカノヤ）、ハヤ（カワムツ）、アブラボデ、ヤマメ、ゴギ、イダ、テッキリ（アカザ青、赤）、スナメリ（カマツカ）、ウナギ、ゴリ等沢山いたそうです。でも最近は、ニゴイ、コイが増えて、ドロツパチ、ドジョウ、オイカワ、カマツカ、ムギツク、ゴリ等が減ってしまい、ゴギ、アブラボテ、テッキリの青はほとんど見なくなってしまいました。</p> <p>滝山川は、僕が小学校2年生の冬に上流のスキー場から油が流失して、大変な騒ぎになったことがあります。川沿いを歩くと油の臭いがしたの</p>

を記憶しています。

その年の夏休みに僕達兄弟は、宿題の「化学研究」に滝山川の水質を調べました。半年しか経っていませんでしたが、川には微生物が戻って、魚は、ニゴイ、コイが少しだけ泳いでいたことをまとめて、努力賞をいただいたことがあります。

芸北には、八幡川漁業共同組合があり、町内の川にヤマメ、鮎等の稚魚を放流して、溪流釣りの醍醐味を味わうことができます。町内外はもとより県外からも沢山来られると聞いています。

滝山川にも釣り人が朝早くから来て楽しんでいるのですが、それは、自然のままの姿ではなく、人が手を貸しているに過ぎないのです。とても残念です。

この夏、高校の野球部を引退して久しぶりに故郷の川に会いに行きました。滝山川は、中学時代に遊んだままの姿で僕を迎えてくれました。父の幼い頃に戻すことはできませんが、今のまま、僕の子供達に受け継いでいけるような形で自然を守っていきたいし、そのための努力を僕達の若い力で頑張ろうと強く感じています。

